



伊野小学校の記念樹「橋本氏記念松樹」の後継樹が里帰り

りんぼく
ー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

ポイント

いの町立伊野小学校に記念植樹されたアカマツの後継樹の苗木が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター関西育種場（岡山県勝田郡勝央町）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、高知県吾川郡いの町からの増殖の要請を受けた「橋本氏記念松樹」（アカマツ）の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

- 里帰り日時 令和5年3月7日（火） 9時35分～10時40分
- 里帰り場所 いの町立伊野小学校（高知県吾川郡いの町柳町12番地）
- 里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 3本

問い合わせ先

- 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター
関西育種場（平日 8:30～17:15）

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 たけだ のぶあき 竹田 宣明
担当者： 収集管理係 たけなか たくま 竹中 拓馬
広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 はやし かつひろ 林 勝洋

Tel : 0868-38-5138 Fax: 0868-38-5139

本資料は、高知県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センター^{りんぼく}では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 320 件の要請があり、243 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 3 年度末現在）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

「橋本氏記念松樹」は、高知県吾川郡いの町に位置する創立 140 年以上の歴史と伝統のある伊野小学校の校庭に、昭和 10 年（1935 年）に記念樹として植栽された、樹高約 5 m、幹回り約 120 cm のアカマツです。校庭にはアカマツの他にクロマツも植栽されており、この 2 本のマツは、長年にわたり小学校のシンボリックな存在になっていました。

このうちアカマツは樹勢の衰えにより枯損する可能性があったため、記念樹の存続を求める地域の声を受け令和 3 年 11 月に、いの町から関西育種場に後継樹増殖の依頼がありました。令和 4 年 1 月に増殖用の枝を採取し、四国増殖保存園（高知県香美市）においてつぎ木を行ったところ、複数の苗木の増殖に成功しました。その後苗木を育成管理し、野外に植栽しても生育可能と判断された 3 本の苗木が、この度小学校に里帰りすることとなりました。

里帰り日の令和 5 年 3 月 7 日には、小学校の卒業記念行事の一環として「橋本氏記念松樹」の後継樹の里帰り式典が行われます。

図、表、写真等



「橋本氏記念松樹」の親木



「橋本氏記念松樹」からつぎ木増殖用の枝を採取する様子